広島女学院
同窓会報
花あやめ
Vol.15
2023年2月5日
広島女学院同窓会 発行
〒730-0014
広島市中区上幟町11-32

2022年度
年間聖句

主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。あなたがたの広い心がすべての人に知られるようになさい。主はすぐ近くにおられます。どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。

フィリピの信徒への手紙４章４節～７節

キャンパスに吹く風

日本キリスト教団牧師
小田部　三恵子（高9）

東広島から大阪へ転居しましたらすぐ大阪支部へ迎え入れられ、同窓の絆や交わりの温かさを覚え、本部はじめ各支部皆様のお働きに、私は今感謝に溢れています。

原爆投下6年後の広島女学院中学に入学当時は、毎朝全校生徒が講堂に集い、板1枚4人掛けの長椅子に座っての10分間の礼拝があり、また週に1度「聖書」の授業がありました。中高6年間で覚えているお話は唯1つ、当時の聖書科担当妹尾活夫牧師のチャペル・トーク「突然の雷」のお話だけ。突然の雷に当時幼稚園児だった先生のご長男が「お父ちゃん、こわい！」と先生の胸に飛び込んで来た。ふと「次男の赤ん坊は?」と見ると、母親の胸に抱かれてニコニコ、ニコニコ安心し切った笑顔でいるではありませんか。先生はそこに赤ん坊の母親への全面信頼の姿を見たと。このお話が今も繰り返し思い起されます。

卒業してすぐのクラス会で、クラスメイトの1人から「何で面白くもない聖書なんかを勉強しようと思ったの?」と聞かれた事がありますが、今思えば、あの質問は当時のみんなの気持ちを代表するものであったと思います。しかし、一方で、チャペルや聖書から醸し出されキャンパスに吹いていた自由な風が、今の私たちを喜び生かしているのではないかとも思わされるのです。「真理はあなたたちを自由にする」（ヨハネによる福音書8章32節）とあるように、私たちがみんな一緒に喜び生きる事が出来る基（もとい）は、あの妹尾先生の赤ちゃんの母親への全面信頼、「人は美しいから愛されるのではなく、愛されているから美しいのだ」（M・ルター）という無条件の受容、つまり、まことの真理にあると聖書は語ります。創立百周年記念式典での米国メソジスト教会婦人部副部長ベティ・ゴートン女史は、その祝辞を「真理は踏み躙られながらも、消えないで続く」と結ばれました。

相手を倒し自分が最高位（神）に迄のし上がって采配を振るおうと、戦禍を繰り返す私たち人間。しかし、まことの真理にしっかり立ち、諦めないで「我らは神と共に働く者なり」と、創立当初を生きられたゲーンス先生はじめ天におられる先達たち共々、私たち同窓も、今学び舎で学ぶ若い学生・生徒・幼な子らと共に、時代の今を将来に向って、広く遠大な神の息吹の中、思いを新たに前進したいです。

2023年度 年間行事予定

4月21日(金)	全国代表者会議
4月22日(土)	ホームカミングデー
5月31日(水)	関西ブロック合同同窓会　ホテルグランヴィア京都
6月10日(土)	学年幹事の集い
6月10日(土)	同窓会報「花あやめ」16号　発行
6月11日(日)	鳥取支部会　倉吉シティホテル「ふじ蔵」
6月17日(土)	愛媛支部会
6月	賀茂地区会
7月	関東ブロック　夏雲の集い
8月6日(日)	広島女学院　平和祈念式
10月7日(土)	高知支部会
10月	広島地区会
11月3日(祝・金)	同窓会バザー(中高文化祭)
11月	広島女学院大学あやめ祭同窓会バザー
12月	同窓会クリスマス会(宗教委員会)
2024年1月16日(火)	高校　同窓会受け入れ式
2月5日(月)	同窓会報「花あやめ」17号　発行
3月	大学　同窓会受け入れ式
毎月　第4水曜日	バイブルクラス　(8月は休会)

※詳しくは
広島女学院同窓会HPを
ご覧ください。

こちらから
アクセスいただけます

2023年 ホームカミングデーのお知らせ

テーマ 隣人を愛せよ ～つなぐ真心～

日時　2023年4月22日(土) 10:30～13:30
場所　リーガロイヤルホテル広島
会費　10,000円

2023年 ホームカミングデー 実行委員会 当番学年				
	高校22	短大21	文英4	文日4
	高校32	短大31	文英14	文日14
	高校44	短大43	文英26	文日26

※同封の振込用紙にてお申し込みください。

ゲーンス奨学金

同窓会では、校母ゲーンス先生の遺徳を偲び、経済的事由から学業継続が困難となった、成業の見込みのある3・4年次の学生に毎年1名につき20万円を4名に贈呈しています。

4名の大学生から、「戴いた奨学金は生活費・学費・資格取得に充てさせていただきます」と感謝のお手紙が届きました。

召天　謹んで哀悼の意を表します。

宮本	由美子(大本)	高29短28
伊藤	京子(大坪)	文英1
前田	君子(住谷)	高5
柴田	美子(永井)	高5
岡田	正子(松原)	高19短18
山下	栄子(角野)	専被4
松井	良子(藤田)	短4
駒沢	暉子(駒沢)	高女56短1
三宅	美代子(久保田)	短3
川端	美代子(太刀掛)	専庭6
平田	道子(吉永)	高3
中井	光子(松井)	高19
増井	三重子(榎本)	短23
増本	靖子(伊藤)	短5
服部	幸江(槙野)	専庭6
広本	サヨ子(伊木)	高女53
蔵本	千幸(大野)	高9短8
高寄	和子	高女46
大澤	優子(高田)	文英14
岩城	和子(富田)	高4
砂田	和子(藤本)	専被4
広津	光子(広津)	文日1
中村	薫(水草)	短6
柏木	久美恵	文英16
佐々木	聡子(溝田)	高26
平石	賀須子(宮本)	高女49
高橋	真弓(富田)	高4大英4
早川	千栄子(堀田)	高23短22
花本	佐智子(今田)	高11
片山	眞恵(中根)	高女55
牛尾	邦江(竹中)	高32短31
西川	友恵(藤本)	高15
松田	信枝(角田)	高女55
中本	律(中本)	専被2
福島	幸世(井沢)	高女48専家22
宮本	寛子	高11
樽谷	美架(奥村)	高33
岸田	保子(中島)	短12
西本	了子(井上)	高5
堀田	多季子(平岡)	高3
古田	三四子(新保)	短6
中山	美智子(中山)	高女56
Betty Morimoto(森本	孝子)	
(西本)		高女48
山下	美恵子(浜崎)	高22

2022年3月から11月までにご逝去のお知らせをいただいた方々です。(敬称略)

寄付　2022年4月～7月

高校7回生	40,846円
大矢 みどり様(高23)	10,000円
2022年HCDシニア世代	155,000円
2022年HCD実行委員会	499,764円
カイト ユリコ様(大英17)	10,000円
西村 信子様(短2)	10,000円
瀬戸山 晃一様(故 瀬戸山 幸枝先生のご遺族)	10,000円

編集後記

三原霜子さんのお名前は、漢詩の「霜を踏みて堅氷至る」から、どんな災いが来ようとも準備を怠らず力強く生きなさい、というお父様の思いが込められているそうです。繰り返し訪れるコロナの波や痛ましい戦禍の報道にふと心が萎えそうになる昨今、戦中戦後を毅然と生きてこられ、今も輝いておられる湊晶子先生や女学院の先輩方は力強い針路を示してくださいます。

また、今年4月には「花あやめ」創刊号に登場いただいた宝塚歌劇団星組 瀬央(せお)ゆりあさんが全国ツアーで初めて故郷広島の舞台に立たれます。

幅広い年代の同窓生の活躍に元気をいただき、同窓会100年の歴史の中に生かされていることに感謝しつつ、共に胸を張って歩んでまいりましょう。

懐かしの寄宿舎 ～大学若葉寮～

「前号の中高寄宿舎の記事をきっかけに、
寄宿舎で共に過ごした同期で当時のフォトアルバムを作ることにしました」
という嬉しいお便りが届きました。
そこで今号では、大学若葉寮の思い出を、かつての寮生に語っていただきましょう。

大学若葉寮は1952年（昭和27年）アメリカメソジスト教会婦人部の寄付によって建てられました。建築様式はスパニッシュコロニアル、全国でも珍しい設備の整ったまるでホテルのようだと言われました。その後、1963年（昭和38年）に新館が竣工。

当時の寮生は「山上の寮から移転して豪華な生活を営むことができるようになった。この寮を大切にしなければと壁には一指もふれないように注意した」と語っています。（「若葉寮生活のしおり」より）

2003年（平成15年）に解体されるまで半世紀に渡り多くの寮生の思い出が刻まれました。

若葉寮の思い出

松本 清子さん
（大英9）

1952年春 牛田山の女学院キャンパス内に「若葉寮」が誕生しました。1956年私は郷里山口を後にして大英9回生として寮生となりました。ピカドンと呼ばれる世界初の原爆被害地ヒロシマは戦後11年を経ていましたが、悲惨な影を街の各所に、また人の心の中にも残している時代でした。

そんな状況の広島市の離れ牛田地（6万坪の女学院の所有地）にモダンで斬新な設備を伴った宣教師館付の寄宿舎があったのです。机椅子と本棚が揃った二人部屋、娯楽室にはステレオ、電気洗濯機、網戸付硝子窓、水洗トイレ、厨房には大型オーブン等々。当時の私達、学生の眼には全て新式で素晴らしい物でした。それ等全て米国メソジスト教会の有志の方々による賜物だったと聞いております。

この寮は自宅から直接通学出来ない遠方（秋田、沖縄）の学生約50名を2人の舎監の先生方の監督の元に営まれていました。朝は当番のチャイムの音で起床、夕べは祈りのある集い、自由時間（門限有）、消燈、就床が原則。寮生活ってどんなもの？ そう長所短所はご想像にお任せいたしましょう！ 私の個人的な思い出は、他学部、上下級生との密なる交流。宣教師として来広されていたミセス・ドナルドとの交流。そして何よりこの寮が授業を受ける教室、図書館、学生施設（テニスコート等）に近く大変便利でした。クリスマスのメサイヤへの参加、牛田地区のクリスマスキャロル等は忘れえぬ楽しい行事でした。唯、牛田住まいはバス乗り場の不便さにより行動範囲が制限されるなどの問題もありましたし、静かな「乙女の園」と云えども些細な事件に触れた事もありました。

卒業を控えた頃の国内は、岸内閣時代で安保反対運動勃発、学生達も参加し大揺れ猛り狂うかの時でした。牛田の寮には嵐は吹いて来ず「日日是好日」の毎日でした。

若き日に女学院の寮で皆様と触れ得た事は大変貴重なる体験でありました。今の心境は書き尽くせぬ感謝の気持ちで一杯です。

広島女学院大学 総務課
米澤 菜穂子さん
（生文7）

2000年に突入する直前、世間では女子中高生に注目が集まり、カリスマ美容師や、カリスマ店員など、ギャル文化が賑わっていたあの時代、私は広島女学院大学に入学、若葉寮に入寮しました。

島根県の高校を卒業し、広島での大学生活が始まることに、とても高揚していたことを思い出します。入寮日、6畳程度に二人分の机と畳ベッドのみが置いてある部屋に案内され、緊張しながらこの狭い部屋の相方を待っていたことを思い出します。到着した相方は、出身地も学部も性格も、育ってきた環境も全く違う子でしたが、すぐに仲良くなりました。そこから広がった寮仲間は、私の人生の運命的な出会いとなり、現在も私という人格形成の一部である気がしています。若葉寮では、朝食時の挨拶、掃除、入浴する際の挨拶、点呼、門限9時など、当時の大学生にとっては厳しすぎるような生活でしたが、苦に思ったことはほとんど無かったように思います。毎日のように、私たちの部屋で集まりおしゃべりをし、一緒に食事をとり、休暇には仲間のご実家にお邪魔したり、点呼ギリギリに部屋に滑り込んだり、出かける服をみんなで貸し借りしてみたり、時に思ってもいないようなハプニングが起きたり、そんな毎日は、厳しい規則を凌ぐ楽しさだったのだと思います。

あいにく、若葉寮は一年間で閉寮となり、最後の寮生となりましたが、貴重な体験と、大切な仲間を授けていただいた一年間は一生忘れることはないと思います。

花あやめ
インタビュー

思い出のパルチコフ先生
～そして独り居の今の幸せ

三原 霜子さん
（高女54）

音楽を奏でる喜びとその調べに身をゆだねる幸せ、そして、それが叶わない時代の嘆きと苦しみ…音を奏でることを禁じられた戦時下の記憶ゆえに被爆ピアノやバイオリンの音色には悲しみと鎮魂の響きが宿るのでしょうか。

在学中にパルチコフ先生にバイオリンの個人レッスンを受けておられた三原霜子さんに当時の思い出を語っていただきました。

革命で祖国を離れ来日したロシア貴族セルゲイ・パルチコフ。ゲーンス先生に招かれ音楽教師として広島女学院に着任、バイオリンの個人レッスンに当たり約30人の生徒とオーケストラを結成し学内外で演奏会を開くなど1926年～1943年にわたり音楽教育に貢献されました。先生愛用のバイオリンは、現在「被爆バイオリン」として平和への祈りを奏で続けています。

―今日はお招きいただき有難うございます。当時（昭和17年）の女学院は音楽教育が盛んだったようですね。

三 原 ええ、音楽学校でもないのに幼稚園の二階が全部音楽室で、放課後はピアノやバイオリンなどの個人レッスンのためだけに6人の先生がおられました。「霜子は指が長いからバイオリンをやりなさい」と父に言われて習い始めました。

―パルチコフ先生のレッスンはいかがでしたか?

三 原 基礎にとても厳しかったですね。最初のひと月は、バイオリンの正しい持ち方だけの教授で終わり。弾き始めてからは「それダメ、もっとゆっくり。楽譜をよく見るですな」と片言の日本語で、それは熱心なご指導でした。でも時には行きたくなくてねぇ、寮の部屋に鍵をかけて居留守を使っていたら「レッスン来ない、それ、いけませんね」って呼びに来られてね、ホホホ。

―当時の楽譜を今も大切に持っておられるそうですね。

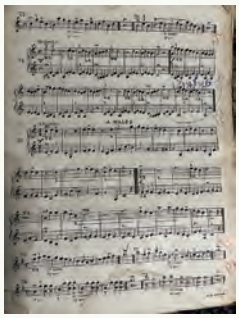
三 原 ええ、戦争がひどくなってからはバイオリンと楽譜は呉の実家に疎開させていたので無事でした。先生にまたお会いできたら「もっと一生懸命に練習すればよかったのに、悪い生徒でごめんなさい」と謝りたいですね。先生は戦争中にスパイ容疑で拷問を受けたりして、広島の印象は決して良いものではなかったでしょう。でも今、先生の被爆バイオリンが、平和の祈りを奏でてテレビや新聞に取り上げてもらっているわけですから、きっと喜んでおられると思いますよ。

―戦時下の女学院、大変なこともたくさんおありだったことでしょう。

三 原 私は体が弱かったから学徒動員で工場には行けずに居残り組。授業もなくて勉強もせず、ずっとおしゃべりして楽しかったですね。上級生は「東宝の病院に行ってくる」（笑）と言って映画館に行ったりして、戦時中とはいえ束の間の楽しみもありましたね。8月6日は遺骨整理作業で比治山の寺にいて、建物の下敷きになって火傷もしたけど、おかげで無事でした。

―他の先生方の思い出もおありでしょうか?

三 原 教頭の光井文武先生ですね。先生は誤った密告をされ拷問を受けて退職されました。女学院を去られる時に残された言葉が忘れられなくてね。「戦争中でも、ミッションの生徒はミッションの生徒らしく胸を張っていなさい。身だしなみをきちんとして、いつも自分らしく生きていってほしい。長い髪はゴムで束ねるだけじゃなくきちんと黒いリボンを結んでね」とおっしゃったの。折に触れこの言葉を思い出し、支えられてきましたね。2人の姉と同じように入学した女学院でしたけど、おかげで自分の道を見つけて迷わず歩むことができました。今でも時々讃美歌が歌いたくなったら教会に行くんですよ。



パルチコフ先生の熱い指導が偲ばれる楽譜

霜子さんは卒業後、女学院の英文科を希望するも兄に医学の道を勧められ上京、理学系専門学校に進学。その後会社勤めを経て結婚。

子育ての傍ら書道と絵画の腕を磨き展覧会に出品するなど、その腕前は玄人はだし。台所の床下には色とりどりのジャムと桜や梅の季節仕事が鎮座してお客様をおもてなし。コロナ以前にはピアニストのお孫さんのコンサートにお嫁さんと渡欧。オーストラリアに出かける前には国際免許を取得し広大な大地でドライブを謳歌、スマホでお孫さんとのラインを楽しみPCも自由自在…など、20年前にご主人を亡くされてからも彩り豊かな暮らしの達人ぶりを発揮して御年93歳の今を笑顔で絶賛満喫中。

辛いことがなかったはずもない来し方に一言たりとも愚痴や暗い言葉を口にされない姿に、美しく齢を重ねるお手本を拝見する思いでした。「私はいつでも、今が一番しあわせ」と笑顔の霜子さんに、女学院生でいらしたころのセーラー服姿の霜子さんとパルチコフ先生が微笑みで応じておられるような、そんな幻想にふと誘われた晩夏の歓談のひと時でした。

卒寿を迎えてもう一歩

広島女学院顧問　湊　晶子

28歳から88歳までの60年間を日本の女子教育のために働かせていただき、最後の7年間を原爆の地広島に導かれたことに不思議な摂理を覚えています。1945年6月19日疎開先の千葉県立高等女学校の校庭に爆弾が投下され、全校生徒の三分の二が爆死、8月6日には広島に、9日には長崎に原爆が。頭に大けがを負いつつも九死に一生を得た私は後遺症のめまいと闘いつつも、人生の最後の仕事にと81歳でどなたも存じ上げなかった広島に導かれたことに神様の不思議な導きを覚えています。

同窓会をはじめ、幼稚園、中学、高等学校、大学の皆様が、80を過ぎた高齢院長・学長を暖かく受け入れ、共に女学院の再建と発展のために歩んで下さったあれこれを思いつつ感謝の気持ちで一杯です。有難うございました。

卒寿を迎えた今は、子供達の勧めにより井の頭公園の傍に位置し、ベランダから富士山が見える高齢者用マンションに移り住み、東京女子大学、津田塾大学、女子学院、玉川聖学院などでの講演、チャペルメッセージ、また各種原稿執筆などで相変わらず忙しい日々を送っております。コロナがもう少し落ち着きましたら、是非「広島に帰りたい!」と願っております。昨年10月28日(金)には、母校東京女子大学エンパワーメントセンターからの依頼で、「～28歳から88歳まで『仕事と生活』に挑戦して～　ワークライフバランスを支えた原動力」と題して、在学生と卒業生を対象に講堂で講演をいたしました。広島女学院高校から東京女子大学に入学してくださった方々も参加して下さり、感謝のひと時でした。

これまでの人生は仕事と家庭の歯車の中でなかなか自分の時間が取れませんでしたが、初めて24時間自分の手中にある生活に入り、心おきなく念願の執筆に集中できることは大きな喜びです。私は5代目のクリスチャンで、初代はジェームス・バラから明治9年に洗礼を受けた双子の姉妹で、現在の横浜共立学園、当時の偕成伝道女学校で学んだバイブル・ウーマンです。代々弁護士、医者、大学教師として社会の中で働きながら伝道して来た家系です。いま、『日本プロテスタント史と共に歩んだ私の家族たち』と題して執筆を始めました。40年間収集してきました資料の分類に楽しく熱中している毎日です。93歳で出版予定です。出来上がりましたら真っ先に同窓会にお送りいたします。それまで神様が地上に置いてくださるようにお祈りに加えていただければ幸いです。広島でのすべてに感謝しつつ。

学年幹事の集い　6月11日

6月11日(土)84名の学年幹事が集い、3年ぶりに開催しました。

三谷高康院長・学長による「旧約聖書の説く　生と死」というテーマの講演を拝聴しました。その後、ホームカミングデー実行委員の引き継ぎを行いました。

尚、諸事情で「学年幹事」を続けていただけない場合には、同窓会の運営をスムーズにする為、同期生の中での引き継ぎをお願いいたします。

2022 平和祈念式報告　8月6日

被爆77年の平和祈念式が、8月6日執り行われました。岩﨑裕香同窓会副会長の司式のもと、大学生本多希美さんの奏楽に始まり、高校茶道部による献茶、澤村雅史先生の聖書朗読・祈祷に続き、三谷高康院長・学長の式辞、竹内路子同窓会長、生徒代表中田愛美さんが追悼の言葉を述べられました。また、中学生全員が折った折り鶴とYWCAによるハンドベル演奏も捧げられました。未来に夢を膨らませていたであろう同窓生、職員の方々に祈りを捧げると共に、私たちが平和を作り守っていく責任を果たすことを新たに誓う式となりました。

コロナ禍でもあり、参列を望みながらお越しいただけなかった方々に向けて、その模様は、インターネットでライブ配信、またアーカイブ配信もされました。

同窓生が読む 広島女学院被爆証言集の会

東京でも、広島女学院被爆証言集を聴いていただきたいと、初めての試みとして新宿カタログハウス本社社員用サロンをお借りし、8月6日同窓生5人による朗読会を開催しました。

参加者25名の中には朝日新聞の案内記事を見て来場された、たった一日だけ広島女学院生だったという小川美佐子さんがおられました。入学したものの、戦況により福岡の実家に疎開、登校日のため5日の夜に来広。8月6日の朝、礼拝に向かう廊下で被爆した実体験を、しっかりした口調で話してくださり、みんな感動しました。

原爆の日に対する関心度がまだまだ東京は薄いなと感じるなか、来年も続けたいと思いました。

白井 京子
(高23文英5)

支部会だより

鳥取支部会

6月4日(土)　米子市民文化ホール研修室/レストラン ル・ポルト　参加者8名

コロナに翻弄されながら、6月4日(土)に第2回鳥取支部会を米子市で開催しました。3名の新しい参加者を迎え、自己紹介・近況報告そして女学院時代の思い出話で盛り上がり、続いて今後の運営方針・役員交代等を協議しました。昨年はお弁当の持ち帰りでしたが、今年はレストランに移動し、身も心も満たされた楽しい一時を過ごせました。今後コロナとの共存の中で支部会員の交流が少しずつ拡がっていくことを心から念じています。

神部 みゆき
(高18大英18)

愛媛・高知支部会

6月18日(土)　日本料理 "雲海"ANAクラウンホテル松山　参加者6名

今年度の支部会開催についても、コロナ禍収束がなかなか見通せない状況下、開催ご案内期限ギリギリまで世話人会で悩み検討した結果、やはり3年続きの開催見合わせはぜひ避けたい、少人数でも来られる人が集まって実施をと決断。当日、ご参加の竹内路子会長から母校の現状などを聞きながら、久々に対面形式の交わりができたことを喜び合った。

次年度以降の支部活動に繋げたいとの熱い願い、何とか達成できたかなと。

四国ブロック
両支部事務局

原爆死没者追悼礼拝「夏雲の集い」

7月13日(水)　横浜指路教会　参加者35名

2020年より2年待っての今年7月13日、神奈川支部担当、横浜指路教会にて、竹内路子会長もご参加くださっての35名の集いとなりました。藤掛順一牧師による礼拝の後は、同窓生黒田(丸本)尚子さん(高31)のオルガン演奏を聴きました。横浜指路教会は、1892(明治25)年ヘボン氏によって建てられたという歴史があります。その広い礼拝堂いっぱいに尚子さんが奏でるパイプオルガンの力強く荘厳な音色が響き渡って、そこに身を委ね聴き入っていく中で、心から平和を願い祈る一日となりました。

陣崎 佳子
(高29)

中部ブロック会

10月1日(土)　マサズキッチン　参加者9名

10月1日、名古屋駅にあるレストランで総会と懇親会を催しました。本部の竹内路子会長をお迎えし、静岡・岐阜・愛知から8名の参加がありました。

昨年度は、会費納入が大幅に増えました。会が開かれなかった丸2年で会員の状況が大きく変化し、参加できない会員が数名いらしたのが残念でした。

しかし、静岡に支部としての新しい動きがあり、来年に向け活動することを確認しました。

大澤 智子(高25)

広島地区会

10月14日(金)　広島アンデルセン　参加者62名

2022年10月14日、コロナ禍で2年間自粛していた広島地区の集いを開催しました。新しく着任された三谷高康院長・学長と竹内路子会長をお迎えし、リニューアルされた広島アンデルセンに戻り、参加者62名での集いでした。ゲストに箏奏者の北垣内秀響さん(高26)をお迎えし、荘厳な箏の音を堪能しました。北垣内さんは、高校邦楽部を創部し、40年にわたり後輩を指導されています。

楽しい秋のひとときでした。

吉光 みつえ
(高25)

埼玉支部会

10月31日(月)　東所沢サクラタウン/ホテルレストランTiam　参加者8名

コロナ感染第七波が落ち着いた透き通った秋空の日、東所沢サクラタウンでゴッホ展のプロジェクションマッピングを観てきました。皆様笑顔で3年ぶりの再会を喜び合いました。リモートでなく「リアル」の素晴らしさ。昼食は思いがけずレストラン側の配慮により私達だけゆったりとした特別な空間となり、お洒落なコース料理をいただき皆が饒舌に歓談し、久しぶりに讃美歌2曲と校歌を歌い、エネルギーを満たした貴重な贅沢な一日でした。

清水 敬子
(短17)

香川・徳島支部会

11月13日(日)　レストラン レールサクレ　参加者8名

年度当初から支部会実施は明確な方向であったが、新型コロナ禍のために日程が後に押された。何とか実現に漕ぎつけ幸いだった。当日は雨中、遠路ご出席の竹内路子会長から学院の現状や今後の方向などをお聞きし、母校についての情報をアップデート。お招きした恩師福田先生(音楽)からは、高校の旧校舎をイメージした手彫りのオルゴールが披露され、図らずもご寄贈を受けた。母校の歴史を語る品として大切に保管し、伝えていきたい。

四国ブロック
両支部事務局

佐伯地区会

11月16日(水)　楽々壮　参加者8名

佐伯地区「あやめ会」は、定例集会を奇数月の第3水曜日として活動しています。今年度は幸いなことに5月、7月、9月、11月と順調に集まることができました。

5月は「地区だより」の発送作業、そして2000年から続いている清鈴園(養護施設)への奉仕活動として7～翌3月までは「おしも拭き」を縫製しています。今年7～11月まで236枚をご奉仕させていただきました。

手は縫物、口はおしゃべりと豊かなひとときを過ごしています。

森　静子
(文英1)

呉地区会

11月26日(土)　阪急ホテル　参加者34名

コロナ禍の中本部より竹内路子会長をはじめ他6名の参加をいただき4年ぶりの呉地区会の開催でした。

2021年湊先生よりバトンタッチされた三谷高康院長・学長をお迎えして「私の宗教遍歴」と題してご自身がなぜこの道に関るようになったのかお話ししていただき、先生の優しいお人柄の中に一本筋の通った強さを感じとることができました。蜜屋さんの協力で「和菓子でアフタヌーンティー」と銘打っておいしいお菓子をいただきながら石原有希子さん(高56)の力強いマリンバ演奏に元気と勇気をいただき、楽しい一時を過ごすことができました。

小島 敬子
(高28短27)